



第12号

「めぐみちゃんのまちづくりだより」

～ 市民と農家の宝もの けやきの里のめぐみです ～

西東京市では、農業者と市民が相互理解を深め、都市の農業・農地が持つ多面的な機能を発揮させることにより、農地の保全を図っていくことを目的に、「都市と農業が共生するまちづくり事業」を進めています。事業の一環として整備された『農のアトリエ「蔵の里」』を活用して、市内の農業を伝える課外授業『西東京市の農業《知っとくスクール》』と『畑の防災訓練』を実施しました。

事業の
ねらい

昔の農の風景や農具の展示空間、交流スペース、情報交換、勉強会等の場として活用する。

事業の
効果

市民がまちの農業を知り、「農」をテーマとした交流拠点となる。

1 「西東京市の農業《知っとくスクール》」

10月10日（木）に碧山小学校3年生の生徒を対象に、農のアトリエ蔵の里で、市内の農業の今と昔について学ぶ「西東京市の農業《知っとくスクール》」を実施しました。この課外授業では、蔵と畑で農園主の富岡さんから農業にまつわる色々な話を聞きました。農具の変遷については、「クワやトラクターなどの農具が、昔と今ではどのように違うのか？」という話や、小麦と稲は「芒（ノギ又はノゲ）が寝ているものは稲で、まっすぐ立っているものは麦と見分けられる」ことや、蔵の中に展示してある唐箕（トウミ）を実際に動かしながら、穀物をどのようにして実と殻に分けているのかなどについて解説をしていただきました。

畑では、栽培している作物を見ながら富岡さんの話を聞きました。あまりスーパーなどでは見かけない「コールラビ」というアブラナ科の野菜を見せてもらいました。コールラビは、ブロッコリーの茎やキャベツに味が似ているそうです。畑の脇に植えられている、収穫目のたわわに実ったキウイやイチジクの実は、子どもたちからも「美味しいそう！」という声が聞こえてきました。イチジクの葉から出る白い汁を見せてもらい、昔はこの汁をイボを取るのにも使っていたということも教えてもらいました。



子どもたちから 富岡さんへの質問

- Q. 富岡さんが小学校3年生の頃は、どんなお手伝いをしていましたか？
- A. お風呂のかまどに火をつけるのを担当していました。薪は、庭木を切ったものを乾かしてから、薪割りをしていました。
- Q. 「蔵の里」の床は、昔からお相撲の土俵のようになっていたのですか？
- A. 「蔵の里」の床は、土間です。土間は土が踏み固められて、今のように固くなりました。